

6 検診胃部撮影における前庭部前壁撮影の改善

AMG 上尾中央総合病院

○高橋 康昭 藤巻 武義 柿崎 紗織 吉井 章

1. 背景

当院だけではなく、一般的に前庭部前壁撮影を撮る際、胃の形を整えるのにいろいろな工夫をして撮影をしている。

しかし、工夫をしてもきれいに描出できないことがあり、検査時間が伸びてしまい、受診者に苦痛を与えてしまうことがある。

2. 目的

当院での前庭部前壁撮影の工夫方法を見直し、より前庭部前壁撮影の描出能向上ができないか検討をした。

3. 方法

3-1 当院、胃部撮影担当者にアンケート

当院の現状を把握するのに胃部担当技師にアンケートを行った。

(アンケート内容) 何度まで頭低位にしていますか? 前庭部前壁撮影を撮る際、どのような工夫をしていますか?他に意見はありますか?

(回答) 頭低位の角度は20°から30°。

工夫の仕方はタオルを用いたやり方、置く位置は心窩部に置くのが多い意見だった。

肩当てを使用してはという意見と、マクラの種類が多い、教え方がさまざまよくわからない、という意見があった。

今回はアンケート結果を参考に検討をした。

3-2 肩当ての検討

肩当て有でどの程度、頭低位にできるのか。また肩当てを使用すると、時間がどのくらいかかるか調べた。

肩当てなしだと、頭低位20°を超えると落ちていく危険性を感じるのに対し、肩当てを使用すると肩当てで体が支えられるため、25°まで頭低位が可能になった。また肩当てを使用すると40秒ほど検査が延長した。

3-3 手すりの検討

肩当ての検討の際、手すりがとても滑りやすいことがわかったので、手すりが滑らないよう工夫をした。材質は、低コストで作成できるスポンジ、滑り止めシート、紙のシーツの三種類使用した。

使用した結果、いずれも角度は30°まで下げても手すりから滑ってしまう恐れを感じることはなかったが、滑り止めシートと紙のシーツは汚れが拭けないことや、すぐ材質がダメになってしまうため、貼り直しが必要だった。

3-4 マクラ作成

アンケート結果をもとにマクラの材質にタオルを使用し作成した。

厚みの調整にスポンジをはさみ、枚数を変え、3種類作成し受診者の体格によって使い分けた。

置く場所は受診者さん自身にみぞおちに置いてもらった。

3-5 改善後のアンケート

(アンケート内容) マクラ使用時の描出はどのように変わったか? 肩当て・マクラ・手すりの変更に伴い不具合はあったか?他に意見はありますか?

(回答) 肩当て、マクラ、手すりとも使用するようになり描出範囲が広がったという意見が多かった。一番厚い枕は、圧迫がつかなく、受診者に苦痛を与えてしまった。また、照射野を付けてからマクラを置きに行った方がわかりやすいという意見もあった。

4. 考察

肩当ては、実際に延長する時間は40秒ほどと短く、受診者の安全管理と検査精度向上の点から使用したほうが良いといえる。

マクラはスポンジ1枚と2枚の2種類にしたほうが良いといえる。

手すりは、今後はコストの点を考えず、滑らないような工夫を行うべきである。

5. 結語

以前よりも前庭部前壁の描出を良くする工夫の仕方がわかり、また受診者の安全管理の向上もできるようになった。

今後、この結果を勉強会やマニュアル改善などで周知をしていき、目的であった前庭部前壁の描出向上を図っていきたい。